

令和7年4月24日

4月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では、4月に入り県西地域は若干少なめの入荷であるが、県北地域は安定した入荷になっている。皆伐材も入荷しており、間伐材は少なめの状況。スギ材は供給量が増え安定したこと、業者の在庫不足も解消されたためか値下がり傾向となった。3.0m柱材で14,000円台半ば、4.0m中目材は14,000円台半ばで推移。ヒノキは全般的に保合が続いており、3.0m柱材で24,000円台後半、4.0m中目材は24,000円台半ばで推移。

群馬県では原木の出材量が順調で集荷は容易。原木の荷余り感も出ており、価格は下落傾向。製材工場の原木消費は年度末が過ぎて一段落。原木消費は通常のペース。操業は通常の操業まで回復している。受注は建築基準法の改正により様子見状況であり、地場の仕事も少なく、販売は芳しくない。製品在庫は角類が均衡、ヒノキ4mの90角・105角KDは原木不足のため少ない。スギ材、角材はダブつき始めている。

2. 米材

4月に入り米国製材品価格は、\$490/MBFまで上昇。トランプ関税問題に揺れるカナダ産材のコスト上昇圧力の行方が定まらず、様子見の状態のまま継続的な価格上昇が続いている。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(4/8)は507/MBF、2月末に比べ10.0%の上昇。米国内木材製品価格上昇により、原木価格は強含んでいる。米国ワシントン州、オレゴン州での州有林入札が今年に入り中止されており、これも供給減少による原木価格強含みの一因となっている。米マツIS級並の4月積み対日輸出価格は、前月より\$10上昇の\$970/千SCRで決着した模様。東京木材埠頭の3月米材製品入荷は10.7千 m^3 (前月比131.8%)、出荷は9.7千 m^3 (同8.1%増)、在庫は23.5千 m^3 (同4.4%減)となっている。2月原木入荷は93千 m^3 と前月比で19%減。出荷は136千 m^3 で大幅出荷超、在庫は125千 m^3 、在庫率は1.03ヵ月。国内の米材工場では、コスト高が続く米材産地丸太に、トランプ関税問題などでさらにコスト上昇圧力があり、大手製材工場は4月より、米松製品および国産杉製品の3,000円値上げを打ち出している。

3. 欧州材

第2・四半期交渉が概ね決着し、大手 ENSO 社、HS 社等のオファー数量も半減してきている。ユーロ値段は€15~20/m³と上昇し、日本側主要プレカット工場も発注数量が減少。国内の価格動向等については、スギ間柱の値上がりの影響なのか WW 間柱の引き合いが増えている。集成柱、集成梁は、大手製材工場の値上げもあり、値上げ機運が高まっている。プレカット工場の稼働状況は総じて好調であり、4号特例の混乱も今のところあまり見られず、1ヵ月前と比較しても少し雰囲気は明るくなってきている。2月の東京港入荷は12.6千m³と前月比増加、出荷は14.3千m³と堅調、在庫は37.2千m³と順調に減少しており、3月末で30千m³レベルまで減ることは確実とされている。

4. 北洋材

産地では3月の気候が例年より暖かく、各企業は伐採搬出を急いでいる。日本向け製材生産は増加しており、中国からの引き合いは強くない。ルーブル高もあいまって、輸出価格と競合し始めた。アカマツ完成品の産地価格は\$570~560/m³と、円安でコストは大きくは変わらないが、アカマツ原板はオファーが少なく価格が把握しづらい。ルーブル高による不採算解消のため現地価格に値上げの動きが強まっている。アカマツ野縁製品は10万円台を維持しており、値下げよりも数量をもっと欲しいという声がさらに強まっている。為替乱高下にもかかわらず、結果的に国内価格は翻弄されることなく推移している。2月の製品入荷（東京+川崎）は10.1千m³で滞留していたコンテナがまとまって待望の入荷となっている。出荷は10.3千m³で実需に変化はない。在庫は23.4千m³で入荷が増えた分、在庫水準の増加が予想される。

5. 合板

国内合板メーカー各社は、原木入荷が減少しており、原木価格も高騰している。合板メーカーは3月の値上げが通り、継続的に値上げ姿勢を崩しておらず、今後も値上げが進むことが予想される。3月も受注は好調だが生産が間に合わない状況で、まだ納期が1ヵ月程度要するメーカーもある。合板生産量は21.2万m³。針葉樹構造用合板の生産量は18.8万m³、出荷量は18.5万m³、在庫量は14.2万m³で前月より2.7千m³増加。輸入合板の2月入荷は16万m³、前年比90.4%と入荷が減少しており、今後の入荷量も減少傾向となっている。マレーシアは原木の出材が少なく、2月の洪水の影響も続いている。3月も原木不足で臨時で工場の停止を余儀なくされているところもあり生産量が上がらない状況である。今後の入荷も減少すると見られる。

6. 構造用集成材（国内産）

3月のラミナ入港量は通年並みで適正在庫である。第1・四半期契約のラミナ価格（CIF）は€300/m³程度、材料単価は値上がり傾向が継続すると見込まれる。欧州産地の製材メーカーは需要減に伴い、減産体制の見込み。国内集成材メーカーの受注は前年同月比100%の水準である。長物や尺上の価格はやや強含みである。原料高、製造コスト高の影響により価格は上げ相場である。2月の構造用集成材の輸入量は小断面24,726 m³（前年同月比14.9%増）、中断面15,943 m³（同8.9%減）となっている。

7. 木材チップ（東海）

原木は製紙・バイオマス発電用とも入荷は例年並みだが、引き取りが増加し、コストアップしている。燃料材は震災廃棄物の流通が拡大し、原料集荷の混乱は見られない。一部地域では受入抑制等の余剰感が強い。チップ工場では生産過剰と定期修理の開始により、消費量が減少。製紙会社では洋紙、板紙ともに製紙原料は減少傾向。夏場にかけて大手製紙で連続して定期修理が多くあり、使用量の減が見込まれる。原料用・燃料用ともに在庫超過で推移。特に燃料用は震災廃棄物の大量入荷が続いており、在庫過多の状況にある。

8. 市売問屋

4月の動きは良くないが、5月の連休明けに期待する感あり。一方でトランプショックが起きる気配が強くなって来ている。スギ、ヒノキ製品の価格は横ばい状況。国産材、外材とも構造材は相場をリードする材が無いために動きが悪い。スギ、ヒノキの役物造作材は仕事の量が少なく、動きが良くない。

9. 小売

国産材製品は、原木供給量の減少により、価格は強含んでいる。しかし、今後も絶対的な仕事の量が見えておらず、値上げ基調が続くかは不透明である。外材製品は、市況の低迷により価格は据え置かれていたが、市中在庫の減少により、ようやく反転傾向にある。国産材構造材は、産地の原木供給は伐採量が回復していないため、スギ・ヒノキともに価格は上昇している。外材製品もコスト高に価格転嫁が追い付いていない。4月以降、WW 集成管柱やRW 集成平角の値上げが見込まれるが、実需次第で製品価格の上昇と品不足が同時に起こる可能性もある。造作材では住宅向けのまとまった需要はなく、当用買いが続いている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和7年4月24日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	↗	↘
	製材品	→	→	→
欧州材	製材品	→	→	→
北洋材	製材品	↗	↗	↗

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

↑ 急増・急上昇
↗ 増加・上昇
→ 横ばい
↘ 減少・低下
↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↘	→	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	↘
			スギ中丸太(3.65m)2等	↘
			ヒノキ柱材(3m)2等	→
			ヒノキ中丸太(4m)2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD)10.5×10.5×4m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD)12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↗
		米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→	
		米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗	
欧州材	製材品	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド’ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
		” 間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	↗	
北洋材	製材品	北陸・オントラ	アカマツ原板(KD) 40×165 1~3等	→
		京浜・オントラ	アカマツ(KD) 30×40上級	→
			アカマツ(KD) 24×28 積木	→
構造用 集成材	国内産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド’集成柱 JAS 5プライ	↗
			レッドウッド集成梁 JAS 105×150~360×3.985	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	”	ホワイトウッド集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985	↗
			レッドウッド集成梁 JAS105×150~360×3.985	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗

注)令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加